

編集／発行●山梨県総合農業技術センター  
住所●甲斐市下今井1100 〒400-0105  
電話●0551-28-2496 Fax.0551-28-4909

http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/sougonoshi/index.html  
E-mail sounou-gjt@pref.yamanashi.lg.jp



## 普及活動第三者評価委員会を開催

### 「総合技術普及センター」



外部に分かりやすく、活動の内容が理解される普及指導活動を構築していくため、普及指導活動の評価を幅広い視点から客観的に外部の方に評価してもらい取り組みとして、平成15年度から、「普及活動第三者評価委員会」を開催し、より効率的、効果的な普及活動を展開することを目的にその結果をホームページで周知してきました。

実施にあたっては、外部有識者や農業団体、生産者、消費者団体の代表者を委員に委嘱し、活動の課題、内容、方法などを説明した後、現地視察を行いました。

本年度は、平成20年度の活動評価を中北地域普及センター、峡東地域普及センター、総合技術普及センター、果樹技術普及センター、畜産技術普及センターそれぞれが説明し、評価を受けました。

評価の詳細につきましては、総合技術普及センターのホームページをご覧ください。次年度も引き続き開催していきます。



## 新しいブランド米の販売が始まりました!



中央市では、新たなブランド米の生産・販売に向けた取り組みを行ってきました。取り組みにあたっては、市内の生産者を中心に「中央市ブランド米普及促進協議会」を立ち上げ、その中でブランド米の栽培や販売方法等について検討を重ねてきました。

その結果、栽培品種は県の新しい奨励品種として採用された良食味品種「ヒノヒカリ」を用い、化学肥料や農薬を慣行の50%以上削減する「特別栽培米」として栽培することに決定し、5月下旬から6月中旬にかけて田植えが行われ、栽培がスタートしました。

生育中には関係者でほ場を巡回し、生育状況等について検討し、適切な管理が行われるように指導を行ってきました。この結果、10月下旬から11月上旬にかけて収穫が行われ、ますますの収穫をあげることが出来ました。

収穫物は検査を経て、去る11月7日から、いちやま玉穂店で販売が開始されました。

中央市におけるこうした取り組みは、地産地消のモデルケースとして注目されています。

New-Brand  
Rice  
「特別栽培米」





## 「就農相談会in峡東」開催

「峡東地域普及センター」



11月28・29日、峡東地域担い手確保・育成支援プロジェクトチーム（山梨市、甲州市、笛吹市の地域担い手育成総合支援協議会で構成）は、山梨県就農支援センターの協力を得て、峡東地域に就農を希望または予定している方を対象に、就農相談会を開催しました。

2日間で、県内外から、24～66歳までの14名の方が相談に訪れ、栽培技術の習得、農地や住宅の確保、研修場所や就農にかかる支援制度などについて、熱心に質問をしておりました。

今回、就農相談に来られた方については、引き続き就農に向けた支援を行います。



農業をはじめたい人を応援します！



新たな担い手の確保、育成

## JA西八代、市川三郷町が農業生産法人「(株)アグリ甲斐」を設立

「峡南地域普及センター」



JA西八代は、市川三郷町等との共同出資による農業生産法人「(株)アグリ甲斐」を平成21年7月1日に設立し、10月から本格的な事業活動を開始しました。

この法人は、JA西八代管内における農地の荒廃化、遊休化の発生防止と解消を図るとともに、新規就農者の育成の機会を提供し、農村社会の活性化と農家経営の円滑な継承に寄与することを目的に設立されました。

現在、就農希望者6名を受け入れ、JAの生産部会員による栽培技術指導を受けながら、特産の「大塚にんじん」「ちぢみほうれん草」の栽培や、耕作放棄地の再生に取り組んでいます。

今後は、「甘々娘」「野沢菜」などの特産品の生産に加え、田植えや稲刈り、果樹の剪定などの作業受託を行う計画です。

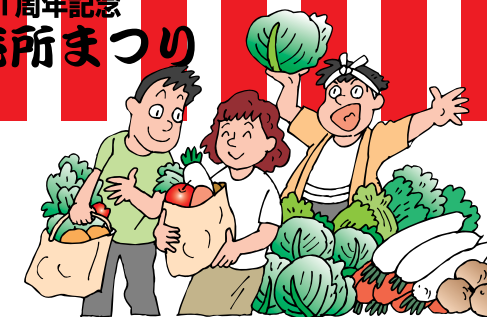
峡南地域普及センターでは、JAと行政が出資する全国的にも先駆的なこの取り組みが、地域農業の発展に大きく寄与し、県・全国のモデルとなるよう支援をしていきます。



## 農産物直売所の生産販売拡大への支援

「中北地域普及センター」

1周年記念  
直売所まつり



甲府市北西部の市街地に立地する直売所として、昨春秋にJA甲府市穫れたてLand池田店がリニューアルオープンしました。新鮮な野菜や果樹、古くから栽培が盛んな菊の切花などが毎日出荷されています。中北地域センターでは、JAと連携しながら、新品目導入や生産拡大のための栽培講習会を行うほか出荷物が少ない冬期出荷に向けた葉菜類のトンネル栽培展示圃を設置するなど、周年安定出荷に向けた取組みを支援しています。

11月にはオープンから1周年を記念して直売所まつりが開催され、多くのお客で賑わうなど、地域の消費者ニーズに応える直売所として定着してきています。

地産地消・花育への支援

## 富士北麓地域の「花育」活動支援



「富士・東部地域普及センター」



富士北麓地域の花生産者で組織される「富士北麓花き生産協議会」では、高品質な花き生産や産地PR活動に取り組んでいますが、今年度、産地の新しい試みとして「花育」活動に取り組むはじめました。

「花育」により、教育場面や地域活動の中で、花とのふれあいや生産者との交流をとおして、地域住民に花の楽しみ方や地域農業への理解を深めてもらうことを目指しています。

協議会の一員である富士河口湖町勝山地区の「勝山花き研究会」が勝山中学校と連携し、生徒達に地域特産のアッサムニオイザクラやピオラ等の鉢上げ作業を指導し、寄せ植え等の楽しみ方も伝えました。

また、中学生が作ったパネルにより「富士北麓地産地消花フェア」で地域に取組を紹介しました。

富士・東部地域普及センターでは、こうした花育活動が地域全体に広がり、花の地産地消や将来の担い手育成等産地の発展につながるよう、関係機関と連携して支援していきます。



# ブルーベリー高品質栽培の推進

「果樹技術普及センター」



ブルーベリーは無農薬栽培が可能で人工受粉や摘果等の作業が不要であり、健康食品や加工用途としても注目され、高齢者にも栽培しやすくまた、観光農業に適する品目として期待されています。

本県のブルーベリーは平成18年頃から北杜市を中心とした観光摘み取り園の増加に伴い栽培面積が増加し、全国第14位、25.5haとなっています。

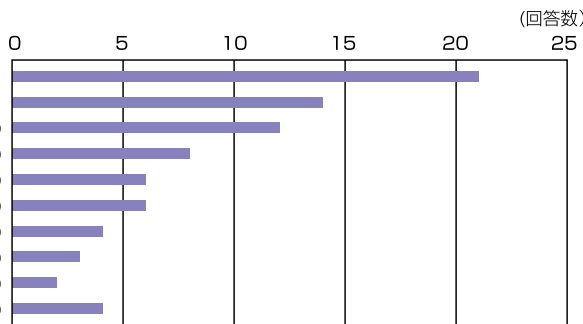
果樹技術普及センターが実施したアンケート調査によると、今後の課題については、栽培経験の浅い栽培者が多いこともあり、優良品種の導入、病虫害・生理障害対策（生育障害対策）等の栽培技術に対する課題が上位を占めました。

そこで、果樹技術普及センターでは本年度から、奨励品種の選定に向けた品種検討や講習会を開催するとともに、生育障害に対する実証ほの設置や個別巡回指導等を実施し、高品質安定生産技術の確立と普及に取り組んでいます。



## 今後の課題

- 高品質栽培技術 (21)
- 病虫害対策 (14)
- 優良品種の導入 (12)
- 防鳥施設の設置 (8)
- 労力確保 (6)
- 観光農業の推進 (6)
- 直売・宅配 (4)
- 加工品の開発 (3)
- 圃場整備 (2)
- その他 (4)



果樹共済への  
ご加入をお勧めします。



●平成18年7月 暴風で折れたモモ



安心のネットワーク  
**NOSAI**

- NOSAI山梨中央 TEL.055(266)4411
- NOSAI峡中・南部 TEL.055(282)0443
- NOSAI北巨摩 TEL.0551(23)1111

## 農業者年金について

農業者年金の保険料は月額2万円から6万7000円までの間で、1,000円単位で選択でき、経営状況などに応じていつでも見直すことが出来ます。また、一定の条件を満たす担い手は国庫補助を受けることが出来ます。納めた保険料は全額が社会保険料控除の対象となるため節税対策になります。

なお、詳細につきましては最寄りのJA、農業委員会までお問い合わせ下さい。

地球温暖化や局地的な異常気象によって災害発生リスクは年々高まっています。平成18年7月、峡東地域を襲った暴風害。19年5月、笛吹市で発生したひょう害。本年も凍霜害で、すももの結実不良が広範囲に発生しました。また、6月16日の降ひょうでは、笛吹市や山梨市のぶどう・もも等に甚大な被害をもたらしました。

果樹共済はこうした災害による減収を補てんし、農家の経営を守る国の災害補償制度です。現在、NOSAI(農業共済組合)では平成22年産の特定危険方式と総合短縮方式の加入推進を行っています。頻発する気象災害に備え、果樹共済へのご加入をお勧めします。

詳しくはお近くのNOSAI(農業共済組合)までお問い合わせください。